

平成28年度第1回尾張旭市子ども・子育て会議会議録

- 1 開催日時
平成28年5月23日（月）
開会 午後1時15分
閉会 午後3時00分
- 2 開催場所
尾張旭市役所 3階 講堂1
- 3 出席委員
林陽子、金森俊輔、原口浩美、井田寿、近藤信綱、加藤多美、秋田啓子、
田中善廣、佐藤智晴、村瀬美根代、冨田紀子、藤島雅子 12名
- 4 欠席委員
小板信行、舩坂礼子 2名
- 5 傍聴者数
0名
- 6 出席した事務局職員
健康福祉部長 若杉浩二、健康福祉部次長 森喜久子、
こども課長 加藤剛、こども課指導保育士 加藤初代、
子育て支援室長 三浦明美、こども未来室長 松野宏美、
こども課長補佐兼こども係長 浅野哲也、こども課保育係長 加藤貴之、
こども未来室こども政策係長 久野善之、こども課保育係 伊奈若葉
- 7 議題等
(1) 保育園待機児童の見込みについて
(2) 子ども・子育て支援事業計画の見直しについて
- 8 配布資料
・保育園待機児童の見込みについて・・・資料1
・子ども・子育て支援事業計画の見直しについて・・・資料2
- 9 会議の要旨

健康福祉部長	<p>皆さま、こんにちは。</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>定刻となりましたので、ただ今から、平成28年度第1回尾張旭市子ども・子育て会議を開会させていただきます。</p> <p>わたくしは、健康福祉部長の若杉と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>なお、本日の会議につきましては、お手元に配布いたしております次第に従い進めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>現在の出席委員は12名でございますので、過半数の出席をいただいております。従いまして、本会議条例第6条第2項の規定による定足数に達しております。</p> <p>なお、この会議は公開しておりますので、会議の傍聴席を設けてございます。また、会議録を作成し、市ホームページ等で公表をしておりますので、委員の皆さまにはご了承いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは、本日の議題に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(資料の確認)</p> <p>それでは、以降の会議の進行につきましては、議長であります林会長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p>
会長	<p>それでは、これより、私が会議を進めてまいりますので、委員の皆さまよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、早速議題に入りたいと思っております。</p> <p>議題の(1)は、「保育園待機児童の見込みについて」でございます。</p> <p>事務局より、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料1により説明)</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ただ今の事務局の説明について、何かご質問・ご意見等があればお願いします。</p>

近藤委員	<p>多くの待機児童が出ているということで、地元選出の国会議員が国会等で大きく取り上げていますが、待機児童が増え続けている現実を自分も懸念しています。</p> <p>特に未満児で待機児童が増えているという部分について、そんなに小さなうちから母親と離れることが正しいことなのかを、もう一度考え直す必要があると考えています。</p> <p>必ずしも、そのことで親子の関係が希薄になるとは限らないと思いますが、できれば専門家の目線で検討してもらいたいと考えています。</p> <p>また、保護者が0歳の子どもを預けて働かなければならないという状況に置かれていることについても、変える必要があると思います。自分で子どもを育てたくても、経済的な理由から、子どもを預けて働くしかないということが無くなるよう、国全体で取り組む問題だと思います。</p> <p>もうひとつ、待機児童解消のため、新たな施設を整備するなどの設備投資は、できるだけ最小限にする必要があると思います。例えば1人の待機児童を解消するために新しく保育園を造るといって、整備費と人件費等のランニングコストで、何十億円というお金が必要と言う話になってしまう。これが本当に正しいことなのか、非常に微妙だと感じています。</p> <p>3歳の壁と言われる問題については、3歳からは幼稚園にも入れるという道筋を作ってもらえれば、幼稚園の吸収能力は非常に大きく、この問題は一瞬で解消できると思います。</p> <p>今は、幼稚園に入園する子供が減っています。幼稚園と保育園では、費用面で保育園を選ぶ保護者も多い。幼稚園側でも教育の充実などを図っていますが、その傾向が強い状況です。</p> <p>また、幼稚園の預かり保育は、採算が厳しいという現実であり、名古屋市では補助が出ます。尾張旭市でも同様の補助を行えば、幼稚園で一時保育を行うところがあるかもしれません。それにより、幼稚園を選択する保護者が増えれば、保育園整備よりも少ないコストで待機児童の解消を図ることができる可能性もあります。</p> <p>あと、小規模保育事業の公募について、6月公募で翌年4月開園というスケジュールは非常に短いと思います。事業者が事業実施を計画するには、少なくとも、もう一年ほど必要ではないでしょうか。そうすれば、幼稚園の空き教室の活用などを検討することもできます。次回に向けて善処していただきたいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、事務局から意見やコメントはありますか。</p>

事務局	<p>小規模保育事業公募の周知期間が十分でないのご指摘につきまして、十分な期間ではないかもしれませんが、まずは、公募を進め、手を挙げてくれる事業者があることを期待したいと考えております。</p>
会長	<p>ありがとうございました。 他にご意見はございますか。</p>
村瀬委員	<p>私は地域の赤ちゃんサロンを手伝っていますが、利用する方で、1歳や1歳半など非常に早く保育園へ入れる方が多くなっています。理由を聞くと、以前は3歳や2歳から保育園へ入れていたが、今は2歳からでは入れない状態なので1歳から保育園に入れると言われる方が多いです。</p> <p>仕事に復帰するためではなく、子どもを保育園へ入れるために早くから仕事に復帰するお母さんが何人かいました。</p> <p>感覚的には非常に本末転倒という思いがします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>2歳からでは保育園に入れないので、1歳から入れるという本末転倒な現象が起きているという意見がありました。</p>
富田委員	<p>それに対して、意見を言わせていただきます。</p> <p>同じことを私も友人たちの間でよく聞きます。彼女たちには、2歳までは自分で子どもを育て、それから働きたいというビジョンがあるのですが、2歳からでは保育園に入れない。そうすると、次の年まで待たなければならなくなります。</p> <p>子どもを2歳までは自分の手で育てたいという願いがあるが、そうしてしまうと保育園に入れないということはおかしい話なのではないでしょうか。</p> <p>また、現時点で働いている人が優先的に保育園に入れるということも、新たに働く人の妨げになっています。このことは既に母親たちでは周知のことで、仕方なく1歳で入れる時に保育園に入れるため、前倒しで働き始める母親たちが多いです。</p> <p>もう少し後から働きたいのに、今から働かないと、今から預けないと、という母親が多いことは悲しいことだと思います。保育園の入園選考基準とのギャップを感じています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>保育園と就業との逆転現象は資料の数字が正しく物語っているのではないのでしょうか。</p> <p>今後、0歳から入れる前倒しが増えるかもしれませんが、近藤委員の言われるように、本当に0歳から保育園に入れることが正しいのかという論点はありますが、さらに0歳から入園させないと1歳も難しくなるのではという流れ、利用者の意識があるのかもかもしれません。</p>

	<p>その件について、計画としてどのように行っていくのか非常に悩ましい問題ですが、他の方で意見のある方はいらっしゃいますか。</p>
秋田委員	<p>本当は3歳から入園したいのに、0歳、1歳から申込みしなければならないということは私も聞いております。</p> <p>いつでも、希望する時に希望する園に入れることができれば、子どもを預ける時期と自分の働く時期を合わせて申し込めますが、就労証明が必要と言う前提があるとそうはいきません。</p> <p>就労証明が無い時に申し込んでも、希望園に入れるなら、このようなことは起こらないと思います。</p> <p>今は、子どもの数は低減しているが、働くために子どもを預けたいという女性は増えているので需要に供給が追いついていません。いつでも希望する園に入れれば、そういったことは必要なくなると思いますが、公的機関がそこまで余裕を持つことができないので、ギリギリのところまで運営している。先程、近藤委員が言われた幼稚園と保育園の垣根がなくなり、ある程度、幼稚園で子どもを預かることができる状況であれば、問題も軽減されるのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他の方はいかがでしょう。</p>
原口委員	<p>県の立場から言いますと、子育て支援・子育てに関わる母親の育児不安への対応は、県を挙げて様々な施策や相談窓口などを考えていこうとしています。</p> <p>妊娠期から一貫して相談を受け入れる相談窓口を全国的に整備していこうということも進められています。</p> <p>そうした窓口で、本当に困っているお母さんをつなげるには、色々な医療機関や保育園・幼稚園の連携が欠かせないと思います。</p> <p>子育てと母子保健が一体となったシステムがあれば、子どもたちのためになるのではと考えています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>たくさんのご意見をいただきました。</p> <p>システムとして今後充実させていくなど、根本的なところを見直すということですね。</p> <p>委員の方からの意見で何か結論を出すということではありませんが、事務局の方でもこうした意見を踏まえ、施策を進めていただきたいと思いますが、事務局から発言はありますか。</p>
事務局	<p>貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>皆さまの言われる通り、自分がもう少し長く子どもの傍にいたいという考えが多いのだと思います。</p>

富田委員	<p>今の状況では、母親が焦ってしまう。早く預け、自分も仕事をするという目標があるので、子どもを出産した後、早く入園させないと仕事ができないと思ってしまう。子どもを出産するために仕事をやめて子育てに入る方が多いので、一回仕事から離れてしまうと元の仕事に戻れるのかという別のストレスもあるので、早くその先の確保をしておかないと、子育てする時間もないと焦ってしまうという仕組みがあるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>そのとおりで、非常に悲しいお話だと思います。</p> <p>しかし、第一希望の保育園でないと入園を断る方も中にはみえます。実際の保育ニーズが待機児童数のみではないとは思いますが、他に計るものがないので、待機児童数を全国的な指標として使われるわけなのですが、先日、名古屋市が何年間か連続で待機児童数が0人ということが新聞に載っていました。しかし、隠れ待機児童と言われるものは数百人という。今年度、尾張旭市は待機児童数24人ですが、これが何を示しているのかは、もう少し精査していく必要性があります。</p> <p>申込みをされて、入園できていない方は実際百人を超えています。その中に本当の保育ニーズとして、我々が拾い上げないといけない人は何人いるのか数えるには難しいのが現状です。本当に必要な人が保育園に入ることができれば、それは、待機児童数が10人、20人となっていることより大事なのではとも思います。</p> <p>多くのご意見をいただきましたので、その全てに答えることは難しいですが、近藤委員からは、1人当たりで幼稚園と保育園では費用のかけ方が違うという話がありました。実際、保育園では、0歳児3人に対し保育士1人が必要。それが3歳児では15人に対し保育士1人です。子どもが小さければ、小さいほど手厚く保育士を配置しています。</p> <p>現状、公立保育園は基本的に市単独で費用を見えています。私立保育園に関しては、運営費や園舎を作る時に国からの補助金がありますが、公立にはありません。こうなると市として公立保育園を整備することのハードルが非常に高くなります。現在は保育ニーズが高まっていることは分かります。しかし、5年後、10年後はどうなっているのかが見えません。新たに保育園を整備するには、建物だけで4億円、5億円必要です。そして毎年、数億の人員費が必要で、将来的に何十億という費用がかかります。保育ニーズの見込みが立たない状況で整備して、何十年経ったとき結果が良くなければ、行政の責任ということになります。</p> <p>昨年も一生懸命計画を立てましたが、核心をついたところを押し量れると良いとは思っています。我々が保育を進めていく中</p>

	<p>で、困っている部分、なんとかしたいという思いは持っているということは伝えたいという気持ちです。</p>
村瀬委員	<p>認定こども園のような幼稚園と保育園を合わせた施設を整備する考えはないでしょうか。幼稚園では2歳児をプレ保育の様な形で預かっているところもあるということです。そういった形で2歳児の待機児童を解消できるのではと思ったのですが、幼稚園で2歳児を預かるということは難しいことでしょうか。</p>
近藤委員	<p>幼稚園は、法律上満3歳の誕生日を過ぎてから小学校就学までが対象なので、正規事業として2歳児を預かることはできません。</p> <p>それ以外の部分は、収益事業と見なされるため、運営面で困難なところがあります。預かり保育のように3歳以上で、名古屋市のような補助金があれば事業として成り立つと思っています。</p> <p>いずれにしても、幼稚園という施設はあるので、小規模保育のように手伝える部分があるかもしれません。ただ、我々には未満児を預かる知識が今のところありませんので、その辺りを勉強する必要があると考えています。</p>
会長	<p>いろいろと、ご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>こちらの議題については、事務局からの報告という位置付けですので、皆様、ご承知置きください。</p> <p>それでは、次に、議題の(2)「子ども・子育て支援事業計画の見直しについて」につきまして、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料2により説明)</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ただ今の事務局の説明について、何かご質問・ご意見等があればお願いします。</p>
金森委員	<p>資料②の計画と現状のところの差が広がっている。平成26、27、28年と今年度にかけて人口推計と実績人口の差が広がっているが、それは全国的な傾向なのか、あるいは東京、関西、中部などの大都市にみられるものなのか、尾張旭市のようなベッドタウンにみられる傾向なのか、部分的な傾向なのか。そうだとすればどこに原因があるのか。</p> <p>尾張旭市の保育の質が高いという部分もあるだろうが、どのように市役所の方でこの数字を捉えているのでしょうか。</p>
事務局	<p>少子化が思ったほど進んでいないという状況は、全国的にも少数派になります。現在、国は地方の人口減少対策を進めていますが、実際は東京への一極集中が止まっていません。主要な地方都市とその近郊では人口減少がみられないところもあります。特に中部圏は、地域に仕事が多くあるので周辺地域から人口が集まっています。</p>

	<p>関西圏は、かなり前から人口減少が始まっており、厳しい状況です。</p> <p>尾張旭市の人口推計は、平成32年度がピークで、その後は緩やかに減少していくという推計が出ています。</p> <p>現状、少子化は進んでいますが、減り幅が予想より少なく、0歳から17歳までの人口数が推計ほど減ってはいません。去年と今年を比べると、平成27年度は14,727人で今年度は14,713人と減少は14人と非常に少ない状況です。市としては色々な施策がこの数字に表れてきたのだと思いますが、まだ詳細な検証はできていません。</p>
金森委員	<p>人口推計というのは、尾張旭市独自の方法ではなく、国から示された算出方法で行っているのですか。</p>
事務局	<p>人口推計に多く用いられる方法にコーホート変化率法というものがあります。コーホートとは1つの年齢集団を指しており、その動向から人口を推計する方法です。</p> <p>区画整理などの地域要因も加わりますが、尾張旭市では、今後、影響が大きな地域要因が見込まれないため、今回は閉鎖的なコーホートの推移を見ている部分が大きいです。</p> <p>今回、人口の推計と実績に差が生じている要因としては、転入・転出の動向が大きいと考えています。</p>
金森委員	<p>もしそうだとすれば、人口推計ではなく、実績の人口推移からある程度の推定値を出して、計画を組むべきだと思います。</p> <p>それを基に計画を組まないと、待機児童は増えていくのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>ありがとうございました。他の方はどうでしょう。</p>
近藤委員	<p>先程、人口推計の算出方法についての説明がありましたが、説明された内容で推計することが正しいのか疑問があります。</p> <p>人口推計の根拠としては、子どもが生まれる数、その子どもがどれだけ保育園に入るか、出産する年齢帯の人口の状況から算出するべきだと思います。</p>
事務局	<p>コーホートによる算出方法は、国立社会保障・人口問題研究所でも採用する方法で、一般的に多く使われている方法になります。</p> <p>算出する過程では、年齢区分における転出入の状況も加味されています。</p>
近藤委員	<p>推計と実績に差が生じており、推計方法に疑問が残ります。また、尾張旭市独自の性格もあると思うので、そうしたものが加味できる手法が必要ではないかと思います。</p>
事務局	<p>人口を正確に見込むことは非常に難しいものがあります。</p> <p>例えば、人口問題研究所の推計や市総合計画の推計では、平成</p>

	<p>3 2年まで人口が緩やかに増加していくことを見込んでいますが、昨年度に実施した国勢調査では、前回調査よりも人口が約300人減少しています。しかしながら、住民基本台帳上では人口は減っていません。</p> <p>何が正確に人口推移を表しているか比較するものではありませんが、その差が約数百人というところは、推計の誤差として無くせないのかもしれないかもしれません。</p>
近藤委員	<p>市全体での数百人は誤差の範囲かもしれませんが、一学年の人数が約700人の中で、100人規模の相違が出ていることが、乳幼児期の教育・保育の計画に与える影響は非常に大きいと思います。</p>
事務局	<p>推計と実績に差が生じているため、計画の見直しを行うことについてを本日の議題としたものです。見直しを進めるにあたっては、どのような推計方法が適しているのかも検討します。</p>
近藤委員	<p>金森委員の発言のとおり、実績の人口を基に算出する方法が合理的だと思います。実績に合わせた考え方にシフトしていく方向が良いと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>実績に合わせて取り組んでいくということで、この計画を2年ではありますが、見直していくべきか、見直しを見送るべきかを議論していきたいと思います。</p> <p>実績人口に合わせた対応ができるよう、私としましては2年目なのでもう少し見守りつつ、2歳から3歳になる動向も見ながら、案①でいく方向にと考えています。</p> <p>推計のずれが生じたことに私も責任は感じていますが、逆のずれでなくてよかったと思い、今後も検討していかなければならないとは思っています。</p>
田中委員	<p>見直す方向でいくべきだと思います。推計にずれが生じているのは明らかなので、そのままではなく、2年目で見直すのは難しいが見直すべきだと思います。</p>
金森委員	<p>すぐに結果の出るものでもなく、予算確保などの苦労もあると思いますが、全国的に保育への関心が高まっており、今後は、豊田や東三河など労働人口の多い地区が保育に力を入れてくるだろうと思います。</p> <p>尾張旭市も10年、20年先を見据え、先行投資として余り気味でもいいから保育所をどんどん増やしていく積極的な考え方でないと、周辺の市町村との競争に負けてしまう。</p> <p>そういう観点で市としても予算を費やしてもらいたいと思います。</p>
井田委員	<p>小学校においても、お母さんやPTA役員から子どもが保育園</p>

	<p>に入ることが難しいといった話を聞きます。実績に合わせて見直すことがいいのではないかと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。 他にご意見ご感想ありましたらお願いします。</p>
加藤委員	<p>案①のとおり見直すべきなのかなとは思いますが。 近年は、制度がどんどん変わるので、保育の現場や保育園を利用するお母さんたち、子どもたちが振り回されている状況に陥っています。 他市では、独自の投資をして待機児童対策を進めているところがあります。尾張旭市でもそのように進んでほしいと思います。造れば造るほど保育園の需要も高まり、需要が高まることでそれなりに市も活気づいてくるのではと思います。</p>
富田委員	<p>今は保育園に目が行きがちですが、保育園と児童クラブなどが同じ建物、同じ敷地で共有することができるようになれば、保育園から小学校に上がっても同じ児童クラブで保育園の先生たちに会えるなど同じ環境を保てます。保育園だけを建てるのではなく、将来、子どもが少なくなった場合に児童クラブや老人施設などにスライドできるような建物にすれば予算の考え方も変わるのではないのでしょうか。 以前、瑞鳳小学校の中に川南保育園が1年間移設された時がありましたが、すごく良いと思って、周りのお母さん方からも評判がよかったです。自分の妹や弟が同じ敷地におり、子どもの笑う声が聞こえ、空いている教室の活用にもなり、小さい子が大きいお姉ちゃん、お兄ちゃんを見て小学校の運動場で遊んでみたりと、良い1年間になったという良い評価でした。 知り合いの6年生のお兄ちゃんと年長の子と一緒に、小学校は入れ違いで一緒に行けないが、たまたま1年間だけ同じ小学校に通うことができ良い経験になったと言っていました。 小学校の先生も保育園へ顔をのぞかせることで、来年どういう子が入ってくるのか見ることができます。もし空いている教室があるのなら今の例みたいなこともできると感じたので、空き教室の活用として瑞鳳小学校のように大きな校舎があれば、新たに作らなくてもできることがあるのではないのでしょうか。役所として、そのやり取りができるかはわからないが、子どもたちを育てる親としては、保育園・小学校・中学校もイメージはあくまで一緒です。私としては案①のとおり見直すことを希望しているが、そのために予算をかけずにできることを模索してほしいと思います。その間に0歳の子は1歳で、1年経って2年経ってとなるとそういった子たちはいなくなってしまうので、差し迫った問題なのではと感じています。小学校と保育園が一緒なのは評判が</p>

	良かったということは伝えたかったので今回お話をさせていただきました。
会長	ありがとうございました。次のステップにつながる良い案だと思います。
近藤委員	市民の負担が過大になることは避けるべきですので、既存のものを活用するという考えは良いと思います。 幼稚園団体としても、手伝えることがあれば、地域の財産として幼稚園を活用してもらうことも考えられると思います。
藤島委員	保育園は保育園、幼稚園は幼稚園となっているので、それぞれの良さを取り入れた新しい形のものを作り、空いているものをうまく活用することで、地域が良くなるのではないのでしょうか。そうした光景を見て、新たに尾張旭市に住もうと思う人も増えると思います。今、せっかく良い保育園・幼稚園が増えているので枠組みを外せるようになればと思います。
会長	ありがとうございました。他の方はどうでしょうか。
佐藤委員	働くお母さんが非常に増えてきており、保育園を利用する人も増えているということも感じております。ただ、それで多額の費用を使って新しく園を建てるのも良くないと思う。公共でなく、できれば民間をうまく使ってやっていくのがいいと思います。
会長	ありがとうございました。 みなさんの意見を聞いたところ、案①のとおり見直すということかと思えます。つきましては、計画を見直す方向でお願いしたいと思っております。 実際に定員をどれくらいにするのか、予算のかけ方、現実に市民の方の税金を使うというわけなのですから、慎重に協議をいただきましてみなさんのご意見をもとに決めていきたいと思えます。 今回の議題は以上で終了でございますが、最後にその他の部分をお願いいたします。
事務局	本日の議題には挙がっておりませんが、放課後児童クラブの状況について、簡単にご報告させていただきます。 現在、市内の全小学校区で実施しております、児童クラブにおきましても、今年度4月時点で待機児童が発生しております。 こちらにつきましては、現在、旭丘児童館内で実施しております旭丘児童クラブを旭丘小学校内に移動して定員を増やすこと、それから、白鳳小学校内で実施しております児童クラブについて、隣接する図工室まで拡張し、多目的教室としたうえで、児童クラブと共用にし、定員の拡充を図る予定としておりますのでご承知置きください。
会長	ありがとうございました。

	<p>ただ今の件について、何かご質問・ご意見等があればお願いします。</p>
事務局	<p>活発なご審議をしていただき、ありがとうございました。 見直しに向けまして、事務を進めてまいりたいと思います。 事務局におきまして、見直し（案）を作成し、9月か10月には、再度会議を開催し、皆様にお諮りしたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
会長	<p>本日は、長時間に渡ってご議論いただきありがとうございました。 これもちまして、平成28年度第1回尾張旭市子ども・子育て会議を閉会いたします。 皆さま議事進行にご協力いただき、大変ありがとうございました。</p>